

授業科目	科目概要・形式	配当年次	オンライン参加
がん看護学特論Ⅰ	2単位30時間(15コマ) 講義科目	博士前期1年次 前期開講	可・不可 「下記7.参照」
科目責任者	鳴井ひろみ		
担当者	鳴井ひろみ、平典子、浅野美知恵、山崎智子		
1. 科目のねらい・目標			
<p>&lt;ねらい&gt;</p> <p>がん患者・家族の看護に用いられるストレス・コーピング理論、危機理論、喪失、悲嘆等の理論について理解を深めるとともに、実践および研究への適用について探究する。また、既存の研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状の課題を分析し、今後の展望について洞察する。これらを踏まえて、がん看護の質向上をめざした実践・研究・教育への活用方法を探求する。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) がん医療・看護の現状と課題、今後の展望について説明することができる。</li> <li>2) がん患者・家族への看護に主に用いられる概念・理論について説明することができる。</li> <li>3) がん看護専門看護師としてがん患者・家族に提供する専門的な看護の質向上のために、がん看護領域における主要な概念・理論を看護実践・研究・教育に活用する方法を検討できる。</li> </ol>			
2. 授業計画・内容			
<p>&lt;がん患者とその家族に対する看護の現状と課題&gt;</p> <p>1回 : がん医療・看護の現状と課題 (鳴井)</p> <p>2回 : がん看護専門看護師の歴史と役割 (平)</p> <p>&lt;がん患者とその家族に対する看護介入に適用される主要な概念・理論の理解と活用&gt;</p> <p>以下の主要な概念・理論について、文献検討による概説、概念・理論を用いたがん看護に関する研究論文の検討、概念・理論を用いた事例分析を行いプレゼンテーション資料を作成する。これをもとに、がん患者とその家族に対する概念・理論を適応した看護介入の展開方法および研究・教育への活用方法について討議する。</p> <p>3回 : がんサバイバーの理解 (平)</p> <p>4～6回 : ストレス・コーピング理論の理解と活用 (鳴井)</p> <p>7～9回 : 危機理論の理解と活用 (鳴井)</p> <p>10～11回 : 悲嘆・喪失理論の理解と活用 (山崎)</p> <p>12～13回 : セルフケア理論の理解と活用 (鳴井)</p> <p>14～15回 : エンパワメントの理解と活用 (浅野)</p>			
3. 教科書、参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
4. 成績評価方法			
講義・ゼミへの取り組み状況40%、プレゼンテーション・質疑応答の内容60%で総合的に評価する。			
5. 受講要件			
がん看護専門看護師コースの学生は必修			
6. 社会人学生に対する配慮			

相談があれば個別に対応する。

#### 7. その他

- 課題内容について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨むこと。
- 状況に応じて Webex meeting または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。